
付属書B:

本委員会委員

ギャレス・エバンズ (オーストラリア) (共同議長)



エバンズ教授は現在メルボルン大学の名誉教授待遇特別研究員であり、ブリュッセルに本拠地を置く国際危機グループ(ICG)の名誉議長を務める。ICGは致命的紛争の防止と解決を目的とする多国籍非政府組織で、五大陸に約120名の専任スタッフを有する。エバンズ教授は2000年から2009年にかけてICGの議長を務めた。それ以前の21年間は豪州の政界に身を置き、そのうちの13年間は司法長官(1983-84年)、資源・エネルギー大臣(1984-87年)、交通通信大臣(1987-88年)及び外務大臣(1988-96年)を歴任している。特に外務大臣在任期間中は化学兵器禁止条約の交渉、核兵器廃絶キャンベラ委員会の発足に携わった。同氏は9冊の著作を執筆・編集しており(最も直近のものは「*The Responsibility to Protect: Ending Mass Atrocity Crimes Once and for All*, Brookings Institution Press, 2008」)、外交政策、人権、法体系制度の改革に関する学術論文・著書も100本以上発行している。エバンズ教授は更に干渉と国家主権に関する国際委員会の共同議長(2001年)も務め、脅威・挑戦・変革に関する国連ハイレベルパネル(2004年)、大量破壊兵器(ブリックス)委員会(2006年)、IAEAに関するセディージョ委員会(2008年)のメンバーでもある。エバンズ教授はメルボルン大学、オックスフォード大学で法学士・文学士号を取得しており、メルボルン大学、シドニー大学及びカールトン大学から名誉博士号を授与されている。同氏はオックスフォード大学マグダレン・カレッジの名誉フェローでもある。

川口順子(日本)(共同議長)



川口氏は、2005年より自由民主党の参議院議員。環境大臣(2000-2002年)、外務大臣(2002-2004年)、内閣総理大臣補佐官(外交担当)(2004-2005年)を歴任。また、サントリー株式会社常務取締役、通産省大臣官房審議官(地球環境問題担当)、在アメリカ合衆国日本国大使館公使、世界銀行エコノミスト(1976-1978年)も務めた。現在、川口氏は政務調査会副会長(環境担当)をはじめ、参議院及び自由民主党内で様々な要職に就いている。同氏はICNND共同議長としての職務以外にも、米日財団理事、アジア太平洋環境フォーラム第2フェーズ(APEED II)議長、ヤング・グローバル・リーダーズ・フォーラム財団理事、クリントン・グローバル・イニシャティブ気候変動ワークショップ顧問、国連大学総長諮問委員、地球規模問題に取り組む国際議員連盟議長を兼任している。川口氏はエール大学で経済学修士、東京大学で学士号(国際関係論)を取得しており、2008年にはエール大学のウィルバー・クロス賞を受賞している。

トウルキ・アル・ファイサル (サウジアラビア)



トウルキ・アル・ファイサル王子殿下は、現在リヤドのイスラム王立調査研究センター理事長を務めている。トウルキ王子はジョージタウン大学、プリンストン大学、ケンブリッジ大学で教育を受けた後、1973年に王室の顧問に就任し、その後、情報局長官(1977-2001年)、駐英・アイルランド大使(2003-05年)、駐アメリカ合衆国大使(2005-2006年)を歴任した。現在は、イギリスのオックスフォード大学イスラムセンターの評議会委員、キング・ファイサル財団創設者、ジョージタウン大学現代アラブ研究所の評議会委員も務めている。また同氏はチャールズ王子イスラム視覚及び伝統芸術センター委員会(Board of the Prince Charles Visual Islamic and Traditional Arts Centre)の元議長として芸術に対する支援も行っている。

アレクセイ・アルバトフ（ロシア）



現在、アルバトフ博士は、ロシア科学アカデミー世界経済・国際関係研究所の国際安全保障センター所長、カーネギー財団モスクワセンターの不拡散プログラムのセンター長、ヤブロコ会派の政治評議会委員を務めている。アルバトフ博士はモスクワ国立国際関係大学にて教育を受けた後、START I交渉、STARTII及びSTARTIII交渉をはじめとするロシアの戦略的課題に政府顧問、相談役として関与してきた。1994年から2003年まではロシア下院議員であり、下院軍事委員会副委員長を務めた。更にロシア科学アカデミーの客員会員、ロシア連邦安全保障会議諮問委員会の戦略計画グループ議長、ロシア外務省諮問委員会委員も兼任している。また同氏は現在、核脅威イニシアティブ（NTI）及びストックホルム国際平和研究所をはじめとする多くの国際的機関の理事としても活躍している。

グロ・ハルレム・ブルントラント（ノルウェー）



ブルントラント博士は1981年から1996年までノルウェー首相、1977年から1997年まで国会議員を務めた。同氏はオスロ大学で医学を学び医師となった後、1964年ハーバード大学に留学し、公衆衛生学修士号を取得した。その後、オスロ市学校保健サービスの副部長（1968－1974年）、ノルウェー環境相（1974－1979年）、環境開発に関する世界委員会の議長（1983－1987年）を歴任した。更にブルントラント博士は1998年から2003年までの期間、世界保健機関の事務局長にも就任している。現在は、国連基金理事及び気候変動に関する国連事務総長特使を務めている。

フレーネ・ノシール・ジンワラ（南アフリカ）



ジンワラ博士は2009年6月まで、クワズル・ナタール大学の総長を務め、現在はアフリカ連合腐敗防止条約諮問委員会の委員、アフリカ対話連合（Coalition for Dialogue on Africa）諮問委員会の委員を務める。ロンドン大学及びオックスフォード大学にて法律を学んだ後、アフリカ民族会議研究（Africa National Congress（ANC）Research）の議長に就任し、西欧へのスポークスマン（1974－90年）も務めた。1987年から1988年にかけては、UNESCOが主宰する平和紛争研究計画（Programme on Peace and Conflict Research）の準備パネルに参加している。その後、ジンワラ博士は南アフリカに帰国してマンデラ氏の事務所（1991－1994年）の一員となり、ANC交渉チームのメンバーとして民主南アフリカ会議及び多党協議に携わった（1992－1993年）。ジンワラ博士は1994年から2004年まで下院議員に就任し、同時期に南アフリカ国民議会議長に選出された。在任期間中、同氏は下院議長を務めた。難民高等弁務官事務所及び人間の安全保障委員会はじめ、ジンワラ博士はアフリカ地域および国連諮問パネルで数多くの要職に就任している。

フランソワ・エズブール（フランス）



エズブール氏は現在、ジュネーブ安全保障政策センター及び国際戦略研究所の理事長、パリの戦略研究財団特別顧問を務めている。同氏はフランス外務省政策立案スタッフに就任し核不拡散の問題を取り扱った。更に、国連フランス政府代表部としてニューヨークにも滞在した（1979－81年）。その後、国防大臣の国際安全保障補佐官（1981－84年）、Thomson-CSF 副社長、国際戦略研究所所長（1992年まで）、MATRA-Défense-Espace上級副社長（戦略開発）（1992－98年）、フランス戦略問題関連グループ議長（1999－2000年）、パリ政治学院教授（1999－2001年）、パリ戦略研究財団所長（2001－05年）、欧州委員会の安全保障研究・開発に関する有識者グループ（Group of Personalities on Security Research and Development）メンバー（2003－04年）、国際バルカン委員会委員（2004－06年）を歴任している。最近では、2008年に防衛・国家安全保障白書を発表したフランス大統領委員会の委員も務めた。

ジェハンジール・カラマツ(パキスタン)



カラマツ將軍は1998年10月までパキスタン陸軍統合参謀本部長兼陸軍参謀長を務め、現在はスペアヘッド研究所所長に就任している。また同氏は国立ビーコン大学政策研究所評議会委員、イスラマバード政策研究所理事、イスラマバード国防大学理事でもある。カラマツ將軍はラワルピンディの国防大学、クエッタの指揮幕僚学校、アメリカ合衆国のフォートレブンワースにある米国陸軍指揮・幕僚大学を卒業しており、国際関係修士号を取得している。1999年、スタンフォード大学国際安全保障協力センター客員研究員、2000年、ワシントンDCのブルッキングス研究所客室研究員、駐アメリカ大使(2004-06年)を歴任。

ブラジェーシュ・ミシュラ(インド)



ミシュラ氏は、1998年から2004年まで、インドのパジパイ首相(当時)の国家安全保障顧問及び首席補佐官を務めた。同氏は1951年インド国務省の外交局に入局し、カラチ(三等書記官1955-56年)、ラングーン(二等書記官1956-57年)、ブリュッセル(一等書記官1957-60年)、外務省(課長補佐1960-64年)、ニューヨーク(次席代表1964-69年)、北京(代理大使1969-73年)、ジュネーブ(大使及び常駐代表1973-77年)、ジャカルタ(大使1977-79年)、ニューヨーク(常駐代表1979-81)に滞在した。その後、1981年から1987年までナミビア国連口頭弁務官に就任。1991年、ミシュラ氏はインド人民党(1991-98年)に入党し、1998年3月に国家安全保障顧問に任命されて辞職するまで、同党の外務局議長を務めた。

クラウス・ナウマン (ドイツ)



ナウマン将軍は1996年から1999年までNATO軍事委員会委員長を務めた。在任期間中、同氏はNATOのボスニア介入、平和のためのパートナーシップ開始、1999年のNATO拡大、NATOの新しい指揮命令系統の承認とコソボ紛争に関与した。1958年にドイツ連邦軍に入営。1972年にドイツの指揮幕僚学校を卒業後、1983年にイギリス王立国防大学にて学ぶ。同氏はドイツ連邦軍にて数々の要職に就き、1991年から96年にかけては連邦軍総監に就任した。退役後、ナウマン将軍は国連平和維持活動に関するパネル(2000年)、介入と国家主権に関する国際委員会(2001年)、国連ハイレベルパネルの支援チームを歴任。同氏は2冊の著書を発表しており、ブダペスト大学から名誉博士号を受賞している。同氏はドイツ国立財団(German National Foundation)の理事でもある。

ウィリアム・ペリー (アメリカ合衆国)



ペリー博士は、元アメリカ合衆国国防長官で、現在はスタンフォード大学の名誉教授(Michael & Barbara Berberian)であるとともに、同時に同大学工学部及びフリーマン・スポグリー国際関係研究所(FSI)教授である。アメリカの外交政策、国家安全保障、軍備管理に卓越した専門家である同氏はFSIのシニアフェローで、予防的国防研究プログラム(Preventive Defense Project)の共同議長も務める。スタンフォード大学で数学学士及び修士号、ペンシルバニア州立大学で数学博士号を取得。同氏は米国陸軍工兵隊を経た後に、電子・技術産業の経営及び研究職に就任した。国防次官(1993-94年)、国防長官(1994-1997年)を歴任。

王英凡（中国）



王大使は1993年から2000年にかけて外務大臣補佐官、外務副大臣を歴任。その後、中国の国連常駐代表（2000－2003年）を務めた。内モンゴルの突泉に生まれ、北京外国語学院で英語を学んだ後、王大使は1964年に中国外務省に入省し、1978年から1993年にかけてアジア局長を含む要職を務めた。同氏は中国とベトナムの国境交渉に関する専門家グループの共同議長、中国のフィリピン大使（1988－90年）も歴任。2003年から2008年までは中国全国人民代表大会外事委員会副議長、中欧議会関係グループの議長に就任した。同氏は現在、中国外務省の外交政策諮問グループ委員を務めている。

シャーリー・ウィリアムズ（イギリス）



ウィリアムズ卿は1993年より貴族院議員に就任し、2001年から2004年にかけては貴族院自由民主党党首を務めた。現在はハーバード大学ケネディー行政大学院名誉教授（選挙政治）、ブラウン首相の核拡散問題担当顧問。ウィリアムズ卿はオックスフォード大学サマーヴィル・カレッジ及びコロンビア大学で教育を受けた。1964年に政治家としての活動を開始して以降、影の内相（1971－73年）、価格・消費者保護担当大臣（1974－76年）、国庫局長官（1976－79年）、教育科学大臣（1976－79年）を歴任。ウィリアムズ卿は、1981年に社会民主党を共同で設立し、同党の党首を務めた（1982－87年）。1988年から2000年までハーバード大学ケネディー行政大学院の教授。

ウィルヨノ・サストロハンドヨ（インドネシア）*



ウィルヨノ大使は1988年から89年にかけて、駐オーストリア大使、在ウィーン国連常駐代表、IAEA理事会常任理事を兼任した。同氏はインドネシア外務省政策局長（1990－93年）に就任し、その後、駐フランス大使（1993－96年）、駐オーストラリア及びバヌアツ大使（1996－99年）を歴任。ウィルヨノ大使はAcademy of Foreign Service（ジャカルタ）、L'Institute des Hautes Études Internationales（ジュネーブ）、ガジャ・マダ大学（ジョグジャカルタ）、インドネシア大学（ジャカルタ）、ジョンズ・ホプキンス

大学(ワシントンDC)にて教育を受けている。1957年インドネシア外務省に入省し、ブエノスアイレス、ワシントン、パリ、そしてニューヨーク国連に滞在。現在は、ジャカルタ戦略国際問題研究所シニアフェロー、インドネシア世界問題協議会委員、アジア欧州財団及びウタヤナ大学(バリ)平和・民主主義協会(Institute of Peace and Democracy)理事。

**パク・ウィルヨノ氏は前任のアリ・アラタス氏が2008年12月に死去したために、2009年1月に本委員会にその後任として参加した。アラタス氏は1988年から1999年にかけてインドネシア外相を務め、逝去した時点ではインドネシア大統領特使兼顧問を務めていた。本委員会は、2008年10月に開催された第一回会合に参加していた同氏の訃報に深い驚きを隠せずにいる。アラタス氏の賢明な智恵と深い見識は世界的に深く惜しまれることになるだろう。*

エルネスト・セディージョ (メキシコ)



ゼディージョ博士は、1994年から2000年までメキシコ大統領を務めた。現在は、グローバル化研究のイェール・センター所長(Frederick Iseman '74)、イェール大学国際政治経済学部教授、森林・環境学部非常勤教授を務めている。更にニューデリーに拠点を持つグローバル開発ネットワーク(Global Development Network)議長、世界経済フォーラム委員会委員、三極委員会委員、外国問題評議会国際諮問委員会委員、G30、国際経済研究所理事、国際危機グループ評議会委員、米州対話フォーラム理事も兼任している。セディージョ博士は数多くの国際委員会で要職を担ってきたが、最近のものは、「2020年及びそれ以降のIAEAの役割」に係る有識者委員会議長、アメリカ大陸パートナーシップ委員会(Partnership of the Americas Commission)共同議長、世界銀行グループのガバナンス改革を検討するハイレベル委員会議長などがある。